

「岡山県企業局経営計画 2019～2028」

令和7年度 実績評価

岡山県企業局

目次

●令和7年度事業実績及び評価について	1
●経営計画 評価一覧表	2
●行動計画別評価シート	
○電気事業	
安定経営の実現・継続	3
再生可能エネルギーの推進	6
○工業用水道事業	
信頼性の向上	8
安定経営の実現	10
○共通取組事項	
新技術の導入、危機管理対策など	12
○計画の推進	18
●推進委員及び外部委員からの主な意見	19

岡山県企業局経営計画 2019～2028 令和7年度事業実績及び評価について

岡山県企業局では、「岡山県企業局経営計画 2019～2028」の行動計画に基づき事業を進めるとともに、毎年度、その実績について評価を行い、事業運営に反映させます。本計画の令和7年度（2025年度）の事業実績概要及び評価結果は次のとおりです。

1 事業実績概要

(1) 電気事業

電気事業は、旭川第一、旭川第二、新見、加茂、黒木えん堤、越畑、久賀、倉見、滝ノ谷、梶並、阿波、寄水、津川、大町、千屋、真加子、苫田、三室の水力発電所（最大出力61,430kW）と岡山空港太陽光発電所（最大出力3,500kW）の計19発電所で発電を行っています。

令和7年度は、供給電力量が182,539,404kWhで、経営成績については、電気料金収入が27億6,000余万円、それに諸収益を加えた総収益が29億3,100余万円となりました。一方、営業費用は22億5,800余万円、それに諸費用を加えた総費用が22億8,600余万円となりました。その結果、当年度純利益は6億4,500余万円となりました。

(2) 工業用水道事業

工業用水道事業は、水島工業用水道（給水能力708,000m³/日）、笠岡工業用水道（給水能力49,700m³/日）及び勝央工業用水道（給水能力4,200m³/日）で給水を行っています。

令和7年度の給水状況は、基本使用水量が554,980m³/日で、経営成績については、給水料金収入が33億5,100余万円、それに諸収益を加えた総収益が36億8,700余万円となりました。一方、営業費用は30億3,200余万円、それに諸費用を加えた総費用が30億4,700余万円となりました。その結果、当年度純利益は6億3,900余万円となりました。

< 経営計画 評価一覧表 >

事業区分	基本的な経営方針	行動計画と具体的な取組	年度評価 R 7
電気事業	◎安定経営の実現	ア 電力システム改革への的確な対応	A
	◎安定供給の継続	イ 安定供給、経済性を踏まえた施設整備の推進	B
		ウ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進	B
	◎再生可能エネルギーの推進	エ 地域資源を生かした新規の小水力発電所の開発を検討	B
		オ 発電電力量増加の検討及び実施	B
工業用水道事業	◎信頼性の向上	ア 計画的かつ効率的な整備の推進と事故時における迅速な復旧	B
		イ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進	B
	◎安定経営の実現	ウ 受水企業との情報共有による円滑な事業運営	B
		エ 事業環境の変化に適切に対応し、安定経営を実現	B
共通取組事項	◎新技術の導入、危機管理対策など	ア 新技術導入の可能性検討	B
		イ 危機管理対策	B
		ウ 人材育成	B
		エ 効率的な経営	B
		オ 施設開放等	B
		カ 環境保全対策	B
両事業	◎安定経営の実現	計画の推進	B

※評価内容は以下の3段階
A 計画を上回る B 計画どおり C 計画を下回る



基本的な経営方針	電気事業 安定経営の実現
行動計画	ア 電力システム改革への的確な対応 (P28)
具体的な取り組み	安定経営に必要な収入の確保 容量市場等への対応

▶ **安定経営に必要な収入の確保**

- 非FIT発電所(12発電所 59,460kW)のR8-9年度の売電について、本県初となる売電先と買電先の相手方を一括で決定する内容での入札を実施し、無事に契約締結
- R8年度中にFIT期間が終了する三室発電所(460kW)の売電についても、無事に契約締結

▶ **容量市場等への対応**

- 容量市場のR11年度需給分に応札・落札
- R7年度需給期間においては、安定的に発電所を運転でき、超過停止によるペナルティ(契約額の減額)なく、予定の収入を確保

< R7年度評価 > A 計画を上回る

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 安定供給の継続
行動計画	イ 安定供給、経済性を踏まえた施設整備の推進 (P29)
具体的な取り組み	計画的、効率的な整備の推進

▶ 電力の安定供給を継続するため、基幹発電所を中心とした施設改修を計画的に進める

- 水車発電機のオーバーホール等、計画的な工事を実施（主要工事 5件）
- 一般送配電事業者との調整の結果、発注時期を延期した工事も1件あったが、概ね計画どおり進捗

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 安定供給の継続
行動計画	ウ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進(P29)
具体的な取り組み	保守管理方法の効率化

▶ **現状の保守管理方法の検証**

- 巡視・定期点検等を実施する際は、作業内容について改善箇所がないかを意識し
管理方法の検証を行い、点検記録の見直しを実施

▶ **保守管理方法の効率化の検討**

- 関係団体、業界紙、セミナー等を通じて保守管理の効率化について情報収集を実施
- 遠隔確認カメラ(ウェアラブルカメラ)を導入。今後、保守管理での効率的な活用を検討

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 再生可能エネルギーの推進
行動計画	エ 地域資源を生かした新規の小水力発電所の開発を検討 (P30)
具体的な取り組み	小水力発電所の開発可能性調査

▶ **小水力発電所の開発可能性調査**

- 環境省が提供する「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS(リーポス))」を活用して選定した新規地点2箇所について、流況や現地状況等の確認結果を基に、概算工事費、維持管理費を算出し経済性の検討を実施

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	電気事業 再生可能エネルギーの推進
行動計画	オ 発電電力量増加の検討及び実施 (P30)
具体的な取り組み	既設発電所リニューアルによる発電電力量増加の検討

▶ 既設発電所リニューアルによる発電電力量増加の検討

- 大町発電所FITリニューアル工事の現地工事 (R8年度) に向けた機器仕様の決定等
- 久賀発電所FITリニューアルに向けた検討を実施
- 苦田発電所におけるハイブリッドダムの取組み (推定増電力量 : 524MWh / 年)

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 信頼性の向上
行動計画	ア 計画的かつ効率的な整備の推進と事故時における迅速な復旧 (P31～32)
具体的な取り組み	計画的、効率的な整備の推進 事故時における迅速な復旧に向けた必要資材等の備蓄

▶ **工業用水道施設の耐震対策**

- 管路の耐震対策 : 工事 3 件、委託 3 件
- 施設の耐震対策 : 工事 1、委託 1 件

⇒ 工程調整の結果、延期した事業もあったが、概ね計画どおりの進捗

▶ **工業用水道施設の老朽化・浸水・停電対策**

- 施設の老朽化対策 : 工事 4 件、委託 1 件
- 施設の停電・浸水対策 : 工事 2 件、委託 1 件

⇒ 概ね計画どおりの進捗

▶ **工業用水道施設整備計画の改定**

- 施設の耐震対策及び老朽化対策を考慮し、最新の工業用水道施設 更新・耐震・アセットマネジメント指針（経産省）に基づき、計画の改定作業を実施

▶ **備蓄資材の種類・数量の精査と追加確保、その後の適正管理**

- 在庫確認や、使用の見込がない資材の処分など、備蓄品の整理を実施

< R7 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 信頼性の向上
行動計画	イ 施設の保安を確保しつつ効率的な保守管理を推進 (P33)
具体的な取り組み	保守管理方法の効率化

▶ **現状の保守管理方法の検証、保安を確保しつつ効率化する方法の検討**

- 共用導水路の内部点検について、従来の人材による点検は安全性や人材確保等に課題があり、R6年度の実証試験等の結果を踏まえ、フロート式無人点検装置による点検調査を実施
⇒ 点検作業の安全性等の課題の解消に加え、トンネル部の背面空洞調査において、人力よる点検調査よりも広範囲の状態把握

▶ **デジタル技術活用に関する情報収集**

- 新技術導入に関する先進事例について、日本工業用水協会の研究大会・中四国事業者ブロック会議、他の自治体への照会等により情報収集を実施

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 安定経営の実現
行動計画	ウ 受水企業との情報共有による円滑な事業運営 (P34)
具体的な取り組み	定期的なニーズ調査の実施 受水企業で構成される団体を通じた情報共有の推進

▶ 定期的なニーズ調査の実施

- 2年ごとの需要量調査により今後の水需要予測を推計
- R8年度基本使用量調査を実施し、次年度の各受水企業の需要量増減等を把握

▶ 受水企業で構成される団体を通じた情報共有の推進

● 岡山県工業用水協議会

- ・ R7年度 第1回理事会 ・ 第53回通常総会 (5月)
- ・ R7年度 第2回理事会 (2月) WEB開催
- ・ 先進事例調査 (11月)

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	工業用水道事業 安定経営の実現
行動計画	工 事業環境の変化に適切に対応し、安定経営を実現 (P34～35)
具体的な取り組み	新規給水への迅速、適切な対応 物価高騰対策への対応 将来の水需要を踏まえた適切な施設規模の検討

▶ **新規給水への迅速、適切な対応**

- 新規給水の給水開始 1 社・給水承認 1 社、その他問合せに対応

▶ **物価高騰への対応**

- R 6 年度決算値を収支見通しに反映し、今後の収支動向を把握

< R 7 年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	ア 新技術の可能性検討 (P36)
具体的な取り組み	先進事業体の調査や研究機関と連携した調査・研究の実施

▶ **先進事業体の調査や研究機関と連携した調査・研究の実施**

- 電力分野、水道分野のDX事業を手掛ける民間企業から情報収集を実施
- 庁内において利活用が呼び掛けられている生成AI等の利用
- RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) の活用 (給与支払事務)

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	イ 危機管理対策 (P38～40)
具体的な取り組み	塩害対策 / 渇水対応 / 震災、水害及び塩害対策訓練の実施

▶ **塩害対策の実施（工業用水道事業）**

- 塩害発生に備え、潮止堰へのパネル設置や2ルート配水体制の対応

パネル設置 7回

2ルート配水体制 1回（7/30～31 カムチャッカ半島付近の地震に伴う津波注意報対応）

※準備まで

▶ **渇水への対応（工業用水道事業）**

- 渇水の発生はなかったが、渇水に備え、工業用水の取水量確保及びダム貯水量確保を考慮して、ダム管理者等と連絡調整を行い、適正な水運用に努めた。

▶ **震災、水害及び塩害対策訓練の実施**

- 2ルート配水訓練（工水）、災害対策訓練[風水害等]（発電）、震災対策訓練（局全体・工水）、油流出事故対応訓練（発電）

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	ウ 人材確保・人材育成 (P40～41)
具体的な取り組み	人材確保の取組/技術力の継承、維持・向上/計画的な研修の実施

▶**人材確保の取組**

- 採用オンライン説明会、インターンシップ、技術職説明会・座談会、Web仕事説明・座談会や、県内工業高校への企業局事業の紹介、高校生向け企業局施設見学会等を実施

▶**経験豊富な職員からの技術の継承 (OJT)**

- 新規職員に雇い入れ時の安全衛生教育を実施
- 現場作業時の注意点、設備の解説及び工具・測定器具の説明をまとめた手引き等を活用し研修
- 故障対応時等における対応方法の実施指導等

▶**技術の継承を行うための職場研修会**

【発電】出水時の対応、貯水池運用研修、河川法令遵守研修等

【工水】硫酸/苛性ソーダ取扱研修、A重油取扱研修、空気弁取扱研修、鋳鉄管研修等

【その他】生成AI研修

▶**段階的・継続的な研修を外部機関が実施する技術研修会を活用し計画的に実施**

- 実地もしくはWEBにより、計画どおり講習会等に参加

<R7年度評価> B 計画どおり

<全体から見た進捗状況> 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	エ 効率的な経営 (P42～43)
具体的な取り組み	民間能力の活用等の検討/一般管理費の節約/資産運用収益の確保

▶ **民間能力の活用等の検討**

- アセットマネジメント、経営戦略に関する公認会計士事務所からの情報収集等

▶ **一般管理費の節約**

- 予算執行方針について通知を発出し、合理化や、コスト意識の醸成を図った。
- 撤去品、工事残材料のうち再使用可能なものを貯蔵品として管理するよう担当者の会議で依頼

▶ **資産運用収益の確保**

- 年度当初及び8月上旬に余剰資金の運用を実施し運用収益を確保

< R7年度評価 > B 計画どおり

< 全体から見た進捗状況 > 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	オ 施設開放等 (P44)
具体的な取り組み	施設開放による学習の場の提供 / イベントへの参画

▶施設開放による学習の場の提供

- 工業用水道施設「社会見学会」の開催(小学生101名参加)
- 発電施設「水力発電施設見学会」の開催(小学生 24名参加)
- 発電施設「新見発電所夏休み小学生親子見学会」の開催(12組24名参加)ほか

▶イベントへの参画

- 「JFEフェスタ」に参加し、パンフレット配布や手回し発電機等のアトラクションを通じて電気・工水事業のPRを実施

<R7年度評価> B 計画どおり

<全体から見た進捗状況> 計画を上回る

基本的な経営方針	共通取組事項 新技術の導入、危機管理対策など
行動計画	カ 環境保全対策 (P45)
具体的な取り組み	脱炭素に向けた取組/既設発電設備のオイルレス化/浄水ケーキの販売

▶**脱炭素に向けた取組**

- 省エネ推進委員会開催や温室効果ガス排出削減報告等を通じたエネルギー使用量やCO2排出量の把握
- 本県初となる売電先と買電先を一括で落札決定する入札を実施し、R8年度から本県水力由来の電力を工業用水道施設に供給することで、CO2排出量の削減を図る取組を実施
- 水源かん養林の整備保全を実施

▶**既設発電設備のオイルレス化**

- リニューアル工事中の大町発電所において電動入口弁を採用

▶**浄水ケーキの販売**

- 生成1,162t、販売1,205t、産業廃棄物処分 0t (3月末時点)
⇒ 浄水ケーキの全量販売を達成。

<R7年度評価> B 計画どおり

<全体から見た進捗状況> 概ね計画どおり

基本的な経営方針	共通取組事項 安定経営の実現
行動計画	計画の推進(P46)
具体的な取り組み	PDCAサイクルによる計画の推進 / 経営の状況及び今後の収支見通し

▶PDCAサイクルによる計画の推進

- 経営計画推進委員会開催（6月、11月）
- 外部委員からのご意見を推進委員会に共有し、各取組の進捗状況の確認等に反映

▶経営状況及び今後の収支見通し

- 経営状況説明会開催（9月）

<R7年度評価> B 計画どおり

<全体から見た進捗状況> 概ね計画どおり

(1) 電気事業

- ・施設整備に関しては、中東情勢の影響が様々なところに出ており、今後を見通すのは難しいことだが、工業用水道事業も同様に施設整備計画等、今後の計画において十分考慮されたい。

(2) 工業用水道事業

- ・近年の物価上昇が課題となっているが、工業用水の料金値上は行わないのか。
- ・共用導水路の点検について、事故につながらないように、しっかり点検調査を続けてほしい。

(3) 共通取組事項

- ・施設開放は、行政の取組を認知してもらう意味でも意義あることであるため、今後も継続してほしい。
- ・新しいことに取り組むことが重要との考え方もあるが、継続的に取り組むべきことをきちんとやるのが、より重要である。